

1 日 時：令和3年4月26日(月)13:30～15:00

2 形 式：対面（一部オンライン）会議

3 出席者：

委員：内藤部会長、山本委員

（オンライン出席）：田中委員、松本委員、奥貫委員

県側：大西副局長、菅原室長、小林班長

4 内容

(1) 議題(1)について事務局から説明

[会長]

・新地域ビジョンの構成第6章目指す方向性について事務局から説明をお願いします。

[事務局]

・資料1、2について説明。今回は第6章の柱立てを中心に進めていきたい。柱立ては、第7章の将来像に関係し、資料2の「地域像の実現に向けた取組みの方向性」が、第5章のキーワードになる。本来は、順序良く進めるところだったが、本日は、第6章を中心に進めていくのでよろしくお願ひしたい。骨子案は7月には確定したいと考えている。この骨子案を提示する際に素案と併せて提示し、7月に完成するスケジュールとしている。コンパクトにまとめて約A4で10ページまでに収まるようなイメージで考えている。資料1は、基本理念を「都市と田園の共生する“こちよ北播磨”を創ります」とし、将来像に反映する想いをあげている。アンケートなどで、「ほどよい田舎」のキーワードが多くあった。住民としては、公共交通機関は不便だが、道路網が整備され、都市とのほどよい距離感の位置にある。その距離感で、自然が豊かで、地場産業、農産物も豊富で、生活の利便性も不自由なくすごせる。この住みやすさをもとに、さらに癒される地域という意味も含めて“こちよ”と表現し、30年後も目指したいイメージとしている。次に柱立ては、北播磨の特徴を出すため、縦に5つの柱を「きたはりま」とし、それにつながるワード、フレーズを考えた。資料2も一緒に参照いただきたい。1番の「きらめく自然の恵みを楽しむ豊かな暮らしを実現します」は、資料2の分野では、安全安心になる。実現に向けた取組みの方向性は、①自然環境の保全、②安全な食、③環境にやさしい農業、④災害、防災、医療、⑤教育・リカレントと考えた。各柱にある括弧書きは、事前に会長と相談した際、観点が必要ではないかと意見をいただき事務局で考えた案だ。この分野の取組みの方向性についてもご意見をいただきたい。（以下5つの柱について説明）

[会長]

・それでは、第6章について、最初に基本理念について意見を伺いたい。案以外の意見、提案があれば忌憚のない意見ををお願いします。

[委員]

・まず、基本理念があり、その理念に基づき、5つの柱があるという構成なのかを確認したい。また、都市と田園の共生するという意味について伺いたい。おそらく北播磨と都市との共生ではなく、北播磨の中に都市的要素と田園的要素があり、それが共生、共存する、もしくはその都市性、田園のものと、人間が共生するという意味かと思うが、そこが判らなかつた。そして“こちよ北播磨”が、5つの柱に落とし込まれるのか、そこを伺いたい。

[事務局]

・この都市と田園の共生というのは、公共交通機関の不便は別として、生活は都市に比べたら足りないところはあるが、不便、不自由と感じていない。その想いを都市と表現した。また、田園は、自然豊かという要素で、言葉からも心地よさが出せたらと、都市と田園が共生していると表現した。人がここに心地よさを感じるところをイメージしている。

[委員]

・今の説明と意図を考え、現在の表現を尊重し、読みにくいところを変えれば、基本理念はあまり長くないほうがいいと思うので、共生を共存にするだけで大分変わるのではと思うがいかがか。

[会長]

・共生に少し違和感があったが、落ち着いたように思う。一旦先に進む。資料1に方向性ということで、1から5までの柱立てがある。それとあわせ資料2では、具体的な取り組みの方向性で、今までのアンケート等の資料からキーワードを拾い上げてある。もれなく入っているか、また全体を見て、ビジョンを読んで北播磨の未来は明るい、元気をもらえるという雰囲気を感じられるかということも含めて、意見を伺いたい。

[委員]

・一つ伺いたい。目指すべき地域像を“きたはりま”の頭をとって表現しているが、これは、キャッチフレーズ的な表現を意識しているのか。(事務局：はい)これは、(地域ビジョン2020のような)冊子になるのか。(事務局：最終的には)かつ、北播磨の人達の目に触れるところに公開したいということか。(事務局：はい)そうすると、キャッチフレーズ的な表現としては、少しわかりにくいと思う。例えば1番のきらめくは、きらめく自然で繋がる。「きらめく自然の恵みを楽しむ豊かな暮らしを実現します」これは恵みを実現します。このように「を」が続くと、一度返ったりして、言いたい事の本質が見えなくなる表現になっている。2番も同様で、「たのしく何とか～」だと繋がると思うが、「たのしく誰もが個性豊かな笑顔になります」では、楽しくが浮いてしまい、楽しく何なのかが伝わらない。それらをキャッチフレーズ的に考えるならば、提案として、北播磨の最初の語句を、一度切って印象づければどうかと思う。例えば1番は、「きらめいて」のあとに空白を置き、例えばそこにクォーテーションマーク(!)をつけ、「きらめいて！自然の恵みが楽しめる豊かな暮らしを実現します」とすると文としては落ち着きがいい気がする。続けて2番も、「楽しんで！」とする。「個性豊かな笑顔になります」というのは、つくり出す方向性を言っているので、例えば「笑顔の溢れる地域にします」という言い方。3番は、「はつらつと！誰もがべっちょよい精神でチャレンジします」そうすると、1、2、3全て目標として見えてくる。4番、5番は、目指すというよりも、現状についての特性を言おうとしている。4番は、リードする産業の未来がすでにある。あるという表現そのものが方向性で、どうかと思うので、例えば「リードする！産業の未来を見据えます」。未来がある、未来を見据えた、もっといい表現があると思うので、これは案として申し上げておく。そして5番目。「また来たくなる」というのを、「また来たい！「オモシロイ」で人が集いつながります」つながりますとすると、目指す地域像が、キャッチフレーズ的に見やすくなるのではないかと提案する。

[会長]

・北播磨というのを頭にもってくることについては、いろいろ意見があったと思う。委員の指摘で、最初のイメージとは大分違ってきた。このキャッチフレーズは、これ

を別途に使うものにして、本文のところでは、意味はこれでいいが、違う書き方にし、使い道を変えたらいいのではないかと思う。

[委員]

・資料2の表の中に、キーワードが入っている。例えば、最初の「きらめく自然の恵み…」のところであれば、(持続可能性)というキーワードがある。この持続可能性というのが、それぞれのキャッチフレーズの中に、少し反映されているといいかなと思う。先ほどの委員の意見を使うと、「きらめいて」となると思うが、「自然の恵みを楽しみ豊かな暮らしを実現します」となっているが、持続可能性ということを加えるのであれば、例えば「育てます」とすると、持続していく、さらに繋がっていくというニュアンスが出てくると思う。2番目は、(多様性)なので、「個性豊かな」というところで反映されているのでいいと思う。3番目は(交流)だから、「べっちょない精神でチャレンジします」もいいが、「べっちょない精神で繋がります」とか、何かそういうバラバラになってしまわないような、一番最初のキャッチフレーズが、キーワードと連動しているような中身にしていくことが、大事なのではと思う。4番目も、(流動性)であれば、流動性をイメージできるようなものにするとか、何かそういう表現にしていくと、もっと全体的な統一性のようなものが出てくるのではないかと思う。中身そのものは、今まで議論してきたことが網羅され、よくコンパクトにまとめられている。苦心された跡が見えるもので感服している。

[会長]

・委員のご指摘のように、キーワードの部分を取り入れてイメージを膨らませると、豊かな表現になるかもしれない。

[委員]

・1点確認したい。今日はこのキャッチフレーズ的なものについての確定をしなくていいか。今回出されたものは、たたき台として、北播磨を頭に置くということも含めて、随分苦心し、今までの議論が反映されているのだろうと思った。だから、提案されたものを前提に、それに必要な修正や追加を加える議論かと思っていたが、頭に北播磨を入れるというようなキャッチフレーズ的なものにするかどうか、という方向の議論をするのか。

[会長]

・今の委員の意見を聞く前は、少し深みが足りないと思っていた。キーワードを反映させれば、随分ちがった印象になってくると感じた。また、委員の意見のように、「きらめいて」や「たのしんで」と言葉を切ると、その言葉の持つイメージが、後ろの文章につながり随分いい印象になると思った。先ほどは、違う書き方についても議論するように申したが、みなさんは、今回の事務局案で進めていいという意見か。

[委員]

・キャッチコピーというニュアンスで、なおかつ、見る人にわかりやすくということから言えば、この資料にある目指すべき地域像の「きたはりま」は、非常に苦心され、苦労されたところがよく見られる。二人の委員の意見で修正すれば、取組みの部分については、まだ、いろいろと出てくるだろうが、今のイメージとしてはいいと思う。あとは、地域像の実現に向けた取組みの方向性の項目が、目指すべき地域像に合っているかということかと思う。

[会長]

・他の先生方もこういう方向で良いか。(了承)キャッチフレーズの形式は、事務局案でイメージを膨らませるように考えるということで進める。

[委員]

・資料1のキャッチフレーズ的なものの下に書いてあるのも、冊子の中に入れる予定か。(事務局：はい)。あまり説明的に長くならないようにという配慮で、こういう分量になったのか。(事務局：はい)。随分苦労され、数行に抑えたのはわかるが、その結果、少しわかりにくい部分があるので、幾つか指摘させていただく。まず1番目。ここで、播州平野を・・・、豊穡な田園をとっている。豊穡な田園を、テクノロジーの進歩と環境保全による蛍が光放つ清流で安全安心な“こちよさ”を創造します。これは、この田園がどう繋がるかというのが、一読しただけではわからない。おそらく豊穡な田園は保ったまま、環境保全によって、安全安心なこちよさを創造しますという意図だろうと思うが、それでよいか。(事務局：はい)。例として訂正すると、まず一つは、保ちたいのは豊穡な田園ということで、豊穡な田園や、で一度とめる。そして、次のテクノロジーの進歩というのは、ここでどういう意味を持つのかわかりにくく、全体の中でどういう位置付け、必要性で入っているのか説明いただきたい。

(事務局：ここのテクノロジーというのは、環境保全に関して、何かテクノロジー、先進的なものを使うことがあるのではないかと思ったので入れたが、委員の話を聞き、ここに入れるのは無理があるなど思うので、ここは削除したいと思う。) 今のような意図であれば、削除するかどうかは、また後で検討していただき、豊穡な田園やのあとが、(テクノロジーの進歩を入れるなら入れるとして、) 清流の風景をと入れた方が繋がりがいいと思う。前後するが、豊穡な田園やで一度切って、そのあとに、蛍の飛び交う清流の風景を、或いは、蛍を育む清流の風景を、つまり豊穡な田園と清流の風景をというふうにここで並べる。その後、テクノロジーの進歩と環境保全の取り組みで、とか、環境保全の取り組みを進め、安全安心な心地よさにつなげます。この今の「つなげます」としたのは、先ほど、委員からご意見があったように、キーワードを意識し、持続可能ということと言うと、つなげますという言い方がよりふさわしいという気がしたのでそうした。今のように検討してはどうか。そのあとの、北播磨地域の・・・は、特に申し上げることはない。2番、3番は、キャッチフレーズ程度かなと思うが、4番がわかりにくい。4行が一文になっている。この4行一文という文の長さは、文として非常に読みにくくなる。それで、書いてあることを尊重して、少してにをはを変えると、随分イメージが変わってくるので、申し上げる。広大な土地と流通により製造業が発展したことを、そこで、文を途中で切り、製造業が発展してきたことを受け、産業拠点を形成しながら、地場産業では新プロモーションやクリエイターを誘致します。ここで一度切ったらどうか。そこで意図が明確になる。そして、従来の製造業の発展と、今後の産業拠点の形成と、地場産業のということを一度に言っているの、ここをもう一度改めて、産地体制を強化しながら、実験的なビジネスも、先駆的に展開して、雇用や企業を生み出します。これは、元の文章の意図、その下書いてある主な意見ということをいろいろ考えて、今のように手を加えてみてはどうかと思った。これで、元々の意図は通じるか参考にしてほしい。そして最後の5番、これも幾つかの内容性質のあるものを、一つの文に入れようとしたのでわかりにくい。歴史的遺産である街道、舟運、疎水、飛行場、ここまでは歴史的な遺産。そして次の、気球フライト体験はこの地域の特性、同じ地域の特性でドローンと自動運転で、それがオモシロイが行き交うということだから、そういうまとまりを作るといいと思う。そこで、古からの最初のところ、歴史的遺産としての、というふうに変えたらどうか。古からの歴史的遺産としての、国宝や、歴史街道、加古川等の舟運、ここは点にすると切れてしまうので、中黒で疎水、鶴野飛行場戦跡や、ここでまず、まとまりを作る。次に落ち着いた風が吹く地域の特性を生かした気球フライト体験、それ

からその次の疎住という言葉は、失礼ながら知らないのですが、この疎住というのは、どういう言葉か。辞書で引いてみたが、辞書には出てこない。これは、役所言葉とか、役人用語か。(事務局：空間、密集していないというこの地域の特徴を、このような言葉にしたので、違う表現にしたい。) 漢字を見れば、今言われたような意味であることはわかる。おそらく、普段使われているのだろうと想像したが、一般の辞書には出てこない言葉だった。そこで今言われたように、ここを人口が密集しない田園地帯の長所を生かしたとすると、よりわかりやすくないかと思う。人口が密集しない田園地帯の長所、或いは特性を生かしたドローンや自動運転など、北播磨ならではのオモシロイが行きかう暮らしが体験できます。そうすると、難しい言葉や特異な言葉を使わず、言いたいことが反映できるような文章になるかと思う。

[会長]

・今の5番の内容的なことだが、北播磨に歴史遺産というのは、どの市町にもある。5市1町バランスをとっている方がいいと思う。小野市の浄土寺、加東市の上鴨川住吉神社神事舞の無形文化財等、明らかに大きなものが抜けているので精査した方がいいと思う。5番目のThe北播磨では、キーワードなどで、その辺のバランスをとるといいと思う。また、女性の活躍というのを2番か3番で入れたらどうか。兵庫県のいろいろな統計を見ても、女性の活躍度が少ないと思う。人口減少の中、今後のことを考えると、女性を入れることができたらと思う。そして、2番に性別、ジェンダーの記載があるが、特に女性や若い人の意見を聞くというようなことが、もう少し表現できればいいと思う。もう1点。この中にいれるのは難しいが、今は、単身者が多くなったり、経済格差が広がったり、昔のように地域や会社でまとまってということが少なくなった。もう少し全体を考えて何かをすることがないと、ビジョンもそういうことだと思う。中身をみんなが共有し、つながりをつける。先ほどの目指すべき地域像でも、つながるとあったが、いろいろなところで、そういうことを意識して取組まないといけないことを盛り込んだらと思う。

[事務局]

・補足だが、資料2の地域像の実現に向けた取組みの方向性というのは、例えば2020のビジョンの中で言えば冊子の27ページ、各地域像の取組目標になる。この方向性が、今後、取組目標になるので、そのように考えて作っていきたいと思っており、例えば女性の活躍は、自己実現の3番の中に盛り込んでいくイメージで考えているが、それでよろしいか。

[会長]

・自己実現というのが3番目にある。他の分野、安全安心、共生と違って、自己実現というのは、個人の目標のようだ。自我形成する中での自己実現で、ビジョンを作っている中では、なじまない言葉ではないかと思う。今の質問とはずれるが、自己実現という言葉は、共生や他の言葉とカテゴリーが違うような気がする。もう少し社会的な関係のところに入った方がいいかなと思う。

[事務局]

・自己実現は、デザイン会議で、若い人が柱立てをしたときに、自己実現ができる地域というのが話の中で出ていた。違和感がある分野だと思ったが、若者としては、こういうことがしていきたいのかな、地域が失敗しても支えるところでありたい、あってほしいということで、デザイン会議で議論になったのかと思ったので、ここに入れた。言われるように違和感があると思うので、別の言葉か、削除するか、意見をいただきたいところだ。

[会長]

・その話を聞いてわかった。若者が、村社会だと長老が幅を利かせて意見が言えないということを行っているのではないかと思う。意見があっても反映されない。村社会では慣習があるだけで規則がないため、新しい人が入ってきたとき、どのような会かわからない。意見を言うことも聞くこともできない。そういうことだと思う。だからそういう村的体質というのは、ビジョンの取組みをしていくには、開かれた社会にしないといけないと思う。そういう意味だと自己実現は、他の言葉に変えたらいいのではないかと思う。

[委員]

・細かいことでいうと資料1の(2)の①の委員が指摘されたテクノロジーのところは、テクノロジーの進歩になっているので、おさまりが悪いのかもしれない。テクノロジーの活用とすれば、環境保全と繋がると思う。そして、資料2のキーワードのカッコの上の、①から⑤の実現に向けた取組みの方向性を見てみると、今の文章の中に反映したらいいだろうと思う、魅力的なキーワードがいっぱいある。例えば、「ゆるやかなつながり」という言葉を、②のどこかに使えないかなと思う。また、地域コミュニティという言葉は、③のどこかに、「自分らしくチャレンジできる地域コミュニティをつくる」とか、少し反映できるのではと思う。その目で見ると、やはり文章的に、字数の制限があるので、なかなか難しい部分があるが、もう少し付け加えたり、長いと思うところは短くしたりしながら、精選できるのではと思う。

[委員]

・細かなことだが、柱の2番の共生に、外国人が抜けているのではと思う。あと先ほどの意見で、例えば女性や高齢者という特定の属性を出す方がいいという意見があったように思うが、これから30年になると、むしろもっと、インクルードしたような表現の方がいいだろうと思う。今の若い世代の教育は、そういう教育を受けている。世の中も少しずつ、そういう価値観が表に出始めている。それから、先日、ビジョン課のインタビューに参加したときの話だが、県の将来構想では、ことさら高齢者が活躍するということが打ち出されているということだ。もちろん、高齢者が多いという理由もあるが、高齢者も多様だし、そんなに働かさないでくれという意見もある。しかし、それを言い出すと、どうして女性の柱がないんだ、若者の柱がないんだ、みたいなことになると思うので、ここはインクルードできるような、ジェンダーとか、世代とか年齢とかいう形で、羅列のほうがわかりやすいと思った。

[委員]

・今の意見と繋がることかもしれないが、例えば気球やドローン。こういうものは、30年先から見たら、すごく古臭いものになっているかもしれない。だから、あまりこういう具体的なものを、挙げない方がいいのではないかと思う。先ほどの女性もそうだが、女性が女性と言っているのは、今だけかもしれなくて、30年後は当たり前、ことさらに取り上げる必要ないという時代になっているかもしれない。だから、大枠で、こういうことが大事で、こういう方向に歩いていくことが必要だ、といったことを示していくような内容がよいのではないかと思う。

[委員]

・リードする産業の辺りだが、これも気になっている。サプライチェーンを担う産業拠点とかいろいろなことがあると思う。これもきっと、少し違って来るだろうと思う。もっとデジタル化が進んでいくとその拠点、産業拠点というと、どうしても立地と繋がる産業拠点のイメージがあるが、おそらくこういうことではきっとなくなってくると思うので、そのリードのところに書かせてもらった。リードのところ、りを使

わないといけないので、30年をカバーできるような、もう少しデジタル化もカバーできるかわからないが、何か、過去のレガシーを少し薄めることをしてもいいかなと正直思った。

[委員]

・今の二人の委員の意見だが、30年先は陳腐になっているというようなことを考えながら文章を作ると、おそらく、何も書けなくなってしまうと思う。大事なのは、30年後を見据えて、今こういう将来像を考えて、取り組んでいますということで、例えばドローンや自動運転というの、「ドローンや自動運転などというようなことを取り込むような」例えば、これから先の生活に必要なAIを駆使した様々な交通手段とかいうような、一般化したものを入れておけばよく、その一般化したものを入れたものの中に、ドローンが、自動運転がありますということでもいいと思う。今のタイミングでことが示されて、そしてそれが30年後になると、30年前はということからもっと発展的に、将来像を考えた取り組みがされていたのだなという、記録的な意味もあると思う。だから、30年後に振りかえったときと併せて、やはり今、30年後を見据えて、いわば役所や、県民や、地域の住民が意識しながら目にするものだとすることを考えると、そういう整理のほうがふさわしいのではないかという気がする。

[会長]

・4番の産業に、例がいろいろとあがっているが、農林業を入れたらどうか。北播磨、東播磨含めて兵庫県の耕地面積が一番広く、農業機関が全部集まっている。灌漑施設、疎水がたくさんあり、多可町は山林や棚田があり、兵庫県の中で、山だけでなく、平野で農業を振興する場所は北播磨ではないかと思う。農業は今、斜陽産業になっているが、国の方針で2050年には有機農業の面積を全耕地面積の25%までにすると言った。化学肥料が分解するときに、いろいろな温暖化物質がでるため、温暖化対策の項目にあがった。そんなことも考えると、自然を残してほしいという要望も非常に強いし、農林業を観光と結び付けるなど、産業の分野に入れたらいいと考える。この地域ならではのものと言え、それだと思。もちろん高速道路もあり、流通起点となっているのも確かだが、倉庫ばかりになり、車だけが走っているようになればだめだ。その利点を活かしながら、地勢を活かす。その辺をここでだせないかと思う。

[事務局]

・案では、環境保全に関連して、農業を安全な環境にやさしい農業ということで入れた。本来は産業だと思うが、1番の安全安心に、自然とともに、オーガニックといったやさしい農業をイメージして入れた。産業の方に入れた方がいいということか。

[会長]

・土地や農業人がそろっているので、産業的にそこを統括できないかなと思った。サステナビリティという環境問題のところで、豊かな自然が出てくるが、この地域の特徴のことではないので、産業に入ればこの北播磨の特徴が出せると思う。皆が農村環境のよいところと感じている。都会と距離が近いので、観光農業と結び付けられる。そういう方向で施策をすれば、たくさんの人を呼べるようになる。産業としての農業を入れてもらいたいと思う。産業を活性化する地元の人たちにとっても馴染みやすいことだと思う。検討いただきたい。

[委員]

・言葉だけのことだが、ドローンや自動運転など北播磨ならではのことはあるが、あまりドローンとか自動運転が北播磨ならではのと感じない。気球フライト体験は、加西市のことだと思うが、気球フライト体験であれば、例えば東条川の疎水体験、多可町の森林浴を活用してのウォーキングツアーなど、北播磨ならではのというものがある。ドロー

ンや自動運転というのは違和感を感じる。

[事務局]

・この地域は、都会のように密集していないので、ドローンも自動運転も実証実験として、いち早く進歩してほしいという期待をここに入れた。実態としては、全く進んでいないが、どこよりも早くここが一番になればうれしいなという思いだ。少し違和感、ここだけ現実味がないということで、盛り込み過ぎたので、検討する。

[委員]

・北播磨ならではのというのが、ドローンや自動運転が北播磨ならではのという理解をされていたかと思うが、そうではなくて、先ほど説明されたように、人口が密集しない田園地帯が北播磨ならではの、ドローンや自動運転などの、実証実験が先駆的にできるということだと思う。それから落ち着いた風が吹くという特性がある。それが北播磨ならではの、だから気球フライト体験ができるというようなことで、人を呼び込むということで、先ほどの4番の先駆けて何かを展開するというものの中に、将来を見据えて、先にまだやっていないことを北播磨でやると、それが面白い体験に繋がって、オモシロイで人も来るし、産業も来るということ、意として書かれたと解釈していたが、それでよいか。（事務局：はい）

[会長]

・最初の基本理念に戻るが、「都市と田園の共存するこちよい北播磨を創ります」これを基本理念にということだが、これについて意見はないでしょうか。都市と田園の共存する・・・という都市とか田園というのは、都市の持っているアメニティーなり、田園の持っている違う種類のアメニティーだったり、象徴的に言っている言葉だったりするので、何か困ったらどうか。そうすれば、都市、田園そのものでないと、読みとれるのではないかと思う。

[委員]

・今の都市と田園のことだが、受け継ぐものと、新たにつくり出すもののような、もう少し違う表現にすることはできないか。都市と田園となると、都市とは何か、田園とは何かのようなことになり、それが両方とも共存する、共生するとはどういうことだ、のような話になる。何か北播磨の、今まで培ってきたすごくいいものと、新たにそれに付け加えていくもの、この両者が共存していく、或いは共生でもいいのかもしれませんが、そういう発想もありなのかなと思う。もちろん他の意見があってもいいかもしれないがどうか。

[事務局]

・まさにそういったフレーズが、何かこの場で思いつけば、提案いただけないかと思う。先生方に良い知恵をいただきたい。

[委員]

・冒頭に質問したところに戻るが、この理念があって、以下に続く柱があるということだと思うので、やはりこの五つの柱が、実現できる状態にあるということが、その理念にちゃんと繋がっているから、心地よい北播磨になるということだと思う。先ほど、委員も言われたように、都市とは何かといえば、人口の集中とか、交通が整っていないのに都市ということとか、またそういう議論になりかねない。そうではなくて、この五つの柱から実現されるもの、要素、何かそういうものがあるといいなと思う。すぐでないが、対比させるような書き方がいいかと言うと、それも検討していいのかと思う。いわゆる都市と田園と比較するという、比較には相容れないものが相容れている良さということだと思うが、それだけでなく、いかにも比較しなくてもいいのではないかと思う。

[会長]

・これは、今日だけでは難しいので、また検討いただきたい。

[委員]

・この基本理念について、提案があれば、事務局へメール等で伝えるということではないか。

[会長]

・委員から提案があったように、意見があればメールで伝えてもらうようお願いする。

[事務局]

・参考資料1のスケジュールを確認したい。第6章の柱、基本理念の意見があれば事務局までメールで提案いただきたい。この基本理念は総括した将来像、目指す姿というようにもっていきたいと考えている。地域像ということは、社会潮流や住民の方の意見から課題を出してきて、それが望ましい姿になるというイメージの柱を考えている。これらを実現する取組みということで、今実際にキーワードを含めて、取組みの方向性を検討いただいた。これらを、先生方の意見をいただきながら、次の起草部会で、素案と骨子案を作り出す予定にしているので、事前に先生方と書面でやり取りをさせていただきたい。6月4日の起草部会后、7月の検討委員会で完成するようなスケジュールで進めたいと考えている。

[部会長]

・今後の予定について、何か質問は。基本理念等の意見は、事務局へメール等をお願いする。

[事務局]

・今回は6月4日の10時40分から開催するのでご予約いただきたい。